

2019年度 病虫害防除暦の変更点とポイント

JA 中野市園芸課（技術）

平成30年11月



1. 2018（H30）問題になった病虫害 *（ ）内は発生量等

- ぶどう
 - ⊕ 病害：黒とう病（シャイン：少）、べと病（8月下旬～：少）、晩腐病（巨峰等：少）
 - ⊕ 害虫：カスミカメムシ類（シャイン：中）、カイガラムシ類（露地、ハウス増加傾向）ハダニ類（シャイン露地、ハウス：増加傾向）
- りんご
 - ⊕ 病害：黒星病（中）・うどんこ病（多）、炭そ病・輪紋病（小）、すす病（中）
 - ⊕ 害虫：ハダニ類（極多）カメムシ類（中）、シンクイムシ類（小）、カイガラムシ類（中）
- もも・ネクタリン
 - ⊕ 病害：せん孔細菌病（極多）、
 - ⊕ 害虫：ハダニ類（多）、カメムシ類（一部）、シンクイムシ類（一部）、カイガラムシ類（一部）
- ナシ類
 - ⊕ 病害：黒斑病（和梨小程度）、輪紋病（西洋梨：小程度）
 - ⊕ 害虫：カメムシ類（中～多）、アブラムシ類（中～小）シンクイムシ類（小）
- サクランボ
 - 害虫：カイガラムシ類、ハダニ類
- プラム
 - 病害：黒斑病・かいよう病
 - 害虫：シンクイムシ類

2. 2019 薬剤散布の進め方

- ① 突発的な豪雨・異常高温等で、短期間のうちに病虫害感染に好適な条件となる傾向。よって、早期予防散布を徹底し、病虫害発生密度を常に低い状態に保ち、急激な害虫の発生や病害の感染拡大を防ぐ。
- ② 主要病害の最大の感染期になる梅雨時期は、集中豪雨や連続した雨等により散布間隔が空いてしまう、また薬剤の効力が短くなることが多い。散布間隔の厳守（場合により前倒し散布実施）、場合により特別散布薬剤を実施する。
- ③ ハダニ類・シンクイムシ類等の発生密度が最大になる梅雨明け後～8月中旬頃は、害虫のライフサイクルが早くなるため（卵から幼虫になるまで約7日位）、毎年被害が多い園地（場所）では特別散布薬剤を含めて10日間隔で薬剤散布を進める。
- ④ 病害の蔓延状態や害虫発生密度が高い状態となった場合は、散布間隔を短縮するか、瞬発力・持続性の高い薬剤の特別散布を実施するなどの対策を講じる。
- ⑤ 散布量は厳守し、園隅々まで死角の無いよう飛散する。病虫害の発生源は、薬液がかかりにくい場所（散布死角）に特に多いので注意する。

3. 2019 品目別薬剤費（平成30年10月末時点の価格で算出しています。）

品目名	10a 当り薬剤費（円）	参考 H30（円）	前年対比（％）	増減理由
ぶどう（露地ぶどう）	61,000	70,000	87	薬剤変更
ぶどう（シャインマスカット）	60,000	62,000	97	薬剤変更
りんご（レギュラー）	85,000	84,000	101	昨年並み・薬剤追加・変更他
りんご（黒星病強化版）	89,000	—	—	新規
もも	86,000	76,000	113	薬剤追加・変更
ネクタリン	79,000	78,000	101	薬剤追加・変更
和梨（有袋）	59,000	58,000	101	ダニ剤変更他
西洋梨（有袋）	53,000	55,000	96	〃
プラム	81,000	81,000	100	薬剤追加・変更
プルーン	73,000	73,000	100	〃
露地サクランボ	65,000	63,000	103	〃

4. 2019 休眠期防除について

栽培地帯（雪解けの早さ他）や対象病害虫に複数体系から選択して散布する。

品目別休眠期防除体系は下記

- ✦ りんご ⇒ 合剤+マシン油、ベフラン液剤（腐らん病）+マシン油、ベフラン液剤単剤等
- ✦ もも ⇒ トレノックス+マシン油、キンセット水和剤+マシン油（せん孔病対策）
- ✦ プラム ⇒ 合剤単用（11月又は3月）、トレノックス+固着性展着剤（ふくろみ病対策）、マシン油単用
- ✦ ナシ ⇒ キノンドー顆粒+マシン油（和梨）、トップジンM水和剤+マシン油（西洋梨）、合剤+マシン油
- ✦ ぶどう ⇒ 巨峰等の晩腐病対策として パスポートフロアブル

シャイン黒とう病対策として デランフロアブル（+展葉2～3枚時オンリーワン）

注意点

- ① 合剤は発芽前散布（7～10倍）を基本とする。（薬害防止）
- ② マシン油（スプレーオイル他）：発芽前50倍、発芽～7日以内100～200倍で使用する。（薬害防止のため）
- ③ 地域差があるため、合剤が散布できない場合は、代替え殺菌剤を使用する。
- ④ ぶどうデランFは発芽後の散布は薬害が発生するので注意する。

5. 2019 展着剤の使用例

梅雨期間や盛夏期等の主要病害虫の防除とポイントとなる時期には、通常展着剤（ハイテンパワー他）に代えて、機能性展着剤（アジュバンド）や固着性展着剤（ステッカー）を使用することで、一定の効果向上が期待できる。

詳しくは、時期の果樹特報に記載します。また、系統別の登録内容は下表をご確認ください。

系統	商品名	登録倍率 (倍)	100%当りの 使用量(ml)	単価/規格 (円)	500%当りの 薬剤費(円)
ハッテン	ハイテンパワー	5000～10000	20～10	504円/500ml	100～50
アジュバンド	ササラ	2000～5000	50～20	1162円/500ml	581～232
アジュバンド	まくぴか	5000～10000	20～10	2456円/500ml	491～246
アジュバンド	ニーズ	1000～2000	100～50	1111円/500ml	1111～555
アジュバンド	アプローチBI	200～1000	500～100	925円/500ml	4625～925
ステッカー	アビオンE	500～1000	200～100	1901円/1ℓ	1901～950
ステッカー	K. Kステッカー	3,000	33	1132円/500ml	373

6. 2019 薬害・飛散等の注意点（各防除暦からの抜粋）

- ① 共通：開花期前後にネオニコチノイド系薬剤を散布する場合は訪花昆虫等に飛散しないよう十分注意する。場合により、訪花昆虫に影響のない薬剤を代替使用する。（詳しくは担当までお問い合わせください）
- ② 共通：開花期前後はミツバチ保護のため、指定薬剤以外は使用しない。
- ③ 3月下旬（休眠期）：石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないように注意する。（果樹類共通）
- ④ 4月中下旬：ボルドー液の展葉後散布は薬害が著しいので散布時期を厳守する。（もも・ネクタリン・ナシ類）
- ⑤ 4月中下旬：ボルドー液の他品目への飛散に十分注意する。（もも・ネクタリン・ナシ類）
- ⑥ 5月上旬～：ストマイ液剤、アグレプト水和剤、マイシン水和剤、アグリマイシン-100 はぶどうに飛散すると種無し果を生じるので隣接園に飛散しないようにする。（もも・プラム）
- ⑦ 5月上旬～：ストマイ液剤、アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 の年間合計使用回数は2回まで。（もも・プラム）
- ⑧ 6月中下旬～：葉焼け防止のため、涼しい時間帯に散布する。（ナシ類）
- ⑨ 6月中旬：ダニゲッターフロアブルはぶどうに飛散すると、新梢停止等の薬害を生じる場合があるので注意する。（りんご）
- ⑩ 7月上旬：ナリアWDGは、ピオーネ、サニールージュに薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。（もも・ナシ類）
- ⑪ 7月中旬～：ベルコートフロアブルはル・レクチェに薬害を生じるので使用しない。（西洋梨）
- ⑫ 8月中旬～：オーソサイド水和剤、アリエッティC水和剤は収穫前の桃等に飛散しないように注意する。
- ⑬ 8月中旬：オマイト水和剤は、ナシ類に登録が無いので、飛散しないように注意する。（りんご）
- ⑭ 9月上旬：ストライド顆粒水和剤は、高温時（気温30℃前後）に散布すると薬害が生じる恐れがあるので注意する。（りんご）

7. 2019 品目別防除暦のポイント

ぶどう

<加温ぶどう病害虫防除暦変更事項>

- カイガラムシ対策
 - ①展葉 6～7 枚の薬剤変更：アプロードフロアブル (H30) ⇒ スプラサイド水和剤 (2019)
- ハダニ類対策
 - ①開花 3 日前：スターマイトフロアブル (H30) ⇒ ダニコングフロアブル (2019)
 - ②落果直後：マイトコーネフロアブル (H30) ⇒ カネマイトフロアブル (2019)
 - ③袋かけ後特別散布の実施（発生状況により実施）：コロマイト水和剤

<露地・雨よけぶどう病害虫防除暦変更事項>

- 晩腐病対策
 - ①発芽直前：ベンレート水和剤 (H30) ⇒ パスポートフロアブル 250 倍（倍率に注意）
（ただし、前年晩腐病発生園はパスポートに代えてベンレート水和剤 200 倍の散布）
- 初期べと病対策
 - 展葉 3～4 枚：フェスティバル水和剤 (H30) ⇒ キノンドーフロアブル (2019)
- スリップス類・カイガラムシ類対策（オルトランぶどう登録失効による）
 - 開花 3 日前：オルトラン水和剤 (H30) ⇒ スプラサイド水和剤 (2019)

<シャインマスカット防除暦変更事項>

- カスミカメムシ類対策
 - 展葉 2～3 枚防除時ダイアジノン水和剤 34 追加
- スリップス類・カイガラムシ類対策（オルトランぶどう登録失効による）
 - 開花 3 日前：オルトラン水和剤 (H30) ⇒ スプラサイド水和剤 (2019)
- ハダニ類対策
 - ①開花 3 日前：スターマイトフロアブル (H30) ⇒ ダニコングフロアブル (H2019)
 - ②8 月中のハダニ対策：ピラニカ水和剤 (H30) ⇒ コロマイト水和剤 (2019)（乳剤ではないので注意）

りんご ⇒ レギュラー版と黒星病強化版の 2 種から選択する

✦ 黒星病対策特記

- ① 黒星病 DMI 剤耐性菌発生に係る撲滅対策のため、従来使用していた DMI 剤（オーシャイン・アスパイア・スコア等）は年間 1 回の限定使用とします。
 - ② 展葉後（4 月上旬）～落花 10 後（5 月中旬）まで 10 日間隔で予防防除進める
 - ✦ 散布目安 *H30 並み想定 *開花期～5 月末は概ね 10 日散布間隔維持
 - ①4/5～10（展葉後）：パスポートフロアブル（新規）⇒4/20 前後（開花 10 日前）：ベフラン液剤 *黒星病強化版のみ
 - ②4/25～（開花期）：オルフィン F（新規）（展葉 5 枚目から散布可）
 - ③5/5～（落花後）：ユニックス顆粒水和剤+オンリーワン F ⇒ 5/15～（落花 10 日後）：フルーツセイバー2019
 - ④5/25～（落花 20 日後）：ジマンダイセン水和剤（新規） *黒星病強化版のみ
- ✦ うどんこ病対策 ⇒ 4 月から被害枝の除去を併せて 5 月末まで予防散布を徹底する
- ✦ ハダニ対策 ⇒ H30 多発園は 6 月中旬から早期予防散布必要
- ① 6/15～20 ダニゲッター（特散）⇒ 7/15～20：ダニコング ⇒ 8/1～5：コロマイト ⇒ 8/15～20：オマイト ⇒ 9/1～5 アカリタッチ乳剤（特散）
 - ② 梅雨明け～お盆過ぎまでを重点的に防除する。梅雨明け直後に中期的抑制効果の高いダニコング F、8 月上旬に成虫に効果高いコロマイト、お盆過ぎに安定した効果があるオマイトを散布する。

✦シンクイムシ類強化対策

- ① 第1世代(6月中旬～)から防除徹底は図り低密度状態を維持する
- ② 越冬世代(5月中旬)～から9月まで異系統薬剤のローテ散布 *薬剤ローテ変更なし

🍑もも・ネクタリン

●せん孔細菌病対策

開花期～5月下旬：春型枝病斑(スプリングキャンカー)の切除を徹底する。

殺菌剤のローテーション：アグレプト水和剤(5月上旬)⇒アグレプト水和剤(5月中旬)

⇒マイコシールド(5月下旬～6月中下旬)を使用する。

開花直前、収穫後：ボルドー液の残効性を高めるため、展着剤はアビオンEを使用する。

6月上旬～6月中下旬：デランフロアブルの倍率を1,000倍から600倍に変更する。

●シンクイムシ対策

7月中下旬：ディアナWDGからエクシレルSEに変更。

8月中下旬：サムコルフロアブルからアルバリン顆粒水溶剤に変更。

●ハダニ対策

7月中下旬：殺ダニ剤ローテーションのため、ダニゲッターFからダニコングFに変更。

🍑プラム

- 散布薬剤の見直し及び散布回数継続。収穫前まで基本的には10日間隔にて散布。

シンクイムシ類対策：初期の発生を抑え、成虫に効果的な剤の選定を実施した(発生消長にあった剤の選択、入れ替えの実施)

落花後：マイコシールド(H30) ⇒ アグレプト水和剤(2019)

5月上旬：アグレプト水和剤(H30) ⇒ マイコシールド(2019)

7月中旬：アーデントフロアブル(H30) ⇒ テッパン液剤(2019)、アルバリン果粒水溶剤追加

7月下旬：テルスターフロアブル(H30) ⇒ アーデントフロアブル(2019)

8月下旬：アルバリン顆粒水溶剤(H30) ⇒ テッパン液剤(2019)

- カイガラムシ類対策：5月中旬にアプロードF1000倍、5月下旬にコルト顆粒水和剤2000倍特別散布(備考)。
- ふくろみ病対策：11月下旬(落葉後)に石灰硫黄合剤、スプレーオイル(特別散布)。

🍑ナシ類

- 有袋版と無袋版の各2種

- 黒斑病・輪紋病対策 ⇒ 開花期からの初期密度を低下させ、梅雨期の感染を防ぐ。

①開花期：オルフィンF新規採用(和梨)

②共通：キノンドーフロアブル ⇒ キノンドー顆粒水和剤変更 *溶けやすく、果面汚れが少ないため

③6月中旬：シトラノーF新規採用(西洋梨有袋) *果面汚れ少ない

④8月中旬～収穫前：ナリアWDG(和梨)、ストロビーDF(共通)を引き続き採用。*果面汚れ軽減を含む

- 殺虫剤のローテーションについて(シンクイムシ類対策)

①6月：ダズバン・スプラサイド等 ⇒7月：アーデントF・オリオン・バリアード等⇒8月：エクシレル・イカズチ等
⇒9月：ダントツ等。異系統薬剤のローテ散布を行う。

②シンクイムシ類・カイガムシ類強化対策：モスピラン・バリアード・ダントツは全て2,000倍で使用する。